

17 ひきこもり「共同支援の基本的段階」と支援のマネジメント

「共同支援」とは、支援者と家族が協力し、お互いにできることを活かしつつ、各段階において適切な支援方法を選択し実施することを意味する。支援の過程は人によって様々であるが、大まかな共通点もある。共通点を取り上げて「ひきこもる人への共同支援の基本的段階と支援のマネジメント」（図表17）、および、2）ミニサポートチームの意義・編成と支援のマネジメントのようにまとめた。なおマネジメントとは、わかりやすく言えば「やりくり」である。多様な支援内容を取捨選択したり、ひとりあるいは複数の支援者間でやりくり（割り振るなど）することである。

図表17に示す各段階の内容は次の通りである。

- （第1段階）家族による支援の時期：この時期が数年にわたる事例もある。この期間（支援者が、支援を開始するまでの期間）をできるだけ短縮することが望ましい。
- （第2段階）支援者が家族を支援する時期：この時期は支援者が家族の支援を開始するが、本人と接することは急がない。家族を通して本人の状況を理解する。
- （第3段階）家族・支援者が共同で支援に取り組む時期：支援者は徐々に本人との直接的・間接的対話関係を形成する。
- （第4段階）徐々にひきこもる人（本人）が家族・支援者の双方を受け入れる時期：本人は支援者との対話関係を形成する。家族との対話が途切れている場合もその回復が進む。
- （第5段階）本人が家族と支援者の共同支援を受け入れ、家族（家族会）・支援者を仲立ちに、地域社会へのつながりを広げ深めていく時期にゆっくと進んでいく。この段階では、各地域に形成されているひきこもり等地域支援ネットワークを活用することが大切な課題となる（吉浦輪：2018、藤井博之編著：2018 他参照）。
支援者は、ひきこもる人たちが地域のひきこもり支援に有益な様々な社会資源を十分活用活用できるよう工夫（マネジメント）し、そのことを通して、ひきこもる人が地域社会の多様な拠点と接点を持ち、地域社会との生きたつながりを意識できることが大切である。

長期・年長のひきこもり支援の場合、第1段階が非常に長い場合が多い。それだけ家族・本人が多く苦労や悩みを体験している。できれば早期に第2段階に移行する対応が必要である。地域の支援窓口（機関・人）が早期に当事者を発見し、適切な支援につなぐために働きかける必要がある。また第3段階から本人との交流ができる第4段階への移行に年月を要することも多い。第4段階に移行しても、長年対人関係が乏しかっただけに、以前の段階に戻ることもあるので、行きつ戻りつすることを織り込んで支援に当たる必要がある。